

2. 牛白血病清浄化への取り組み事例（第1報）

宇佐家畜保健衛生所、1）大分家畜保健衛生所

○羽田野昭・（病鑑）御手洗善郎・木本裕嗣・（病鑑）滝澤亮・（病鑑）長岡健朗¹⁾

【はじめに】近年、地方病型牛白血病（EBL）は全国的に増加傾向にあり、EBLの発生要因の特定及びまん延防止対策により、EBLの発生防止を図ることが喫緊の課題である。このような状況を踏まえ、本県では、昨年度より特定疾病リスク低減対策事業を実施しており、当家保で牛白血病ウイルス（BLV）まん延防止対策を実施している農場の調査結果を踏まえ、まん延防止対策内容を検討したので、その概要を報告する。

【対策農場の概要】

A農場は黒毛和種繁殖雌牛106頭規模、フリーストール。

【A農場におけるEBL浸潤調査内容及びハイリスク牛等の設定】

H25.7月繁殖牛（育成牛含む）全頭計106頭について、白血球数、BLV抗体検査を実施し、BLV抗体陽性でリンパ球割合60%以上かつリンパ球数10,000（個/u1）以上の牛についてリアルタイムPCRによる遺伝子検査を実施し、遺伝子量が2,000（コピー数/10ngDNA）以上の牛をハイリスク牛、遺伝子量1,000以上の牛を準ハイリスク牛とした。

【A農場のEBL浸潤状況調査結果】

H25.7月に実施した計106頭の調査結果では、BLV抗体陽性は、94頭（88.7%）。うちリンパ球割合が60%以上かつリンパ球数10,000以上牛は14頭で、ハイリスク牛4頭、準ハイリスク牛8頭、遺伝子量1,000未満牛2頭であった。

【まん延防止対策の検討】

上記調査結果を受け生産者と協議の上、下記対策を実施。

人為的感染防止として、血液を伴う作業（除角、削蹄、耳標装着、鼻かん装着）や治療行為での消毒等の徹底、直腸検査でのビニール手袋等の1頭交換の徹底及び記録を指示。吸血昆虫対策として、イヤータグ等忌避剤の装着を指示。ハイリスク牛・準ハイリスク牛の隔離（同牛舎内隔離）及び早期淘汰を指導。陰性牛の隔離（陰性牛を約2km離れた別牛舎へ移動）を実施。自家保留牛及び導入牛は抗体検査を随時実施し、陰性牛は分離飼育を指示。初乳感染を防止するため、特にハイリスク牛及び準ハイリスク牛の産子には、初乳製剤の給与を指示。また、10月に陰性牛BLV抗体陰性維持確認検査を実施、2頭が抗体陽転していたことから、EBLの初期感染を確認するため、1回目の抗体検査後約3ヶ月以内に抗体陰性牛の確認検査を実施することとした。

【まとめ及び考察】

牛白血病発生頭数は年々増加傾向にあり、と畜場一般出荷肥育牛にも発生がみられ、発生農家の経済的損失や子牛市場への影響も考慮し、早急なNOSAI制度の改正や助成措置が必要と思われた。今回の対策農場のEBL浸潤状況結果では、BLV抗体陽性率が88.7%と高く、ハイリスク牛も4頭みられ、まん延防止対策では、抗体陰性牛の確認検査が初期感染牛摘発に有効と思われた。当該農場のようなBLV抗体陽性率の高い大規模農場では、抗体陽性牛の早期淘汰は困難を要し、長期継続的対策が必要となることから、助成措置を講じ早期清浄化を図ることが望ましい。今後は、家畜飼養者及び関係者と連携しつつ清浄化に向け努力して行く。